

# 第95回全国高校サッカー選手権大会



最高の舞台、「幸」せっぱいの笑顔で入場行進

## 31回生サッカー部「幸」から「心ある人」に向かって・・・

滝川第二高等学校 サッカー部監督 松岡 徹

31回生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。楽しい3年間をありがとうございました。

31回生が1年生時にはコーチとして、比較的近い距離でサッカー部の指導をした。2、3年時にはサッカー部監督として、31回生に関わることが出来た。新チームのスタートは、チームの土台作りから始めた。約1カ月間かけて多くの事を話し合っでチームをスタートした。昨年3月の合宿時には、監督として気づけなかつた点を選手達から多くの事を学ぶことができた。自分としても選手達と同じように成長させてもらった。本当に、31回生のサッカー部員には、感謝しています。

最後の全国選手権大会は「心あるチーム」として、3年生を中心として「心あるサッカー」ができたと思います。私自身も20年以上前の全国選手権に出場した。滝川第二高校サッカー部員として、第69回全国選手権大会で日大山形に勝利して、滝二として選手権初勝利したピッチに立っていたことが甦りました。監督としては、初戦の秋田商業に勝利することができた。監督としても選手権初勝利を選手達のお陰で経験することができた。ありがとう。

これからは、「怯まず・驕らず・澁刺と」「心ある人」を目指して頑張ってください。

### 31回生 兵庫県三冠達成

平成27年度 兵庫県高等学校サッカー新人大会	優勝
平成28年度 兵庫県高等学校総合体育大会	優勝
平成28年度 全国高等学校総合体育大会	全国ベスト16
平成28年度 兵庫県高等学校サッカー選手権大会	優勝
平成28年度 全国高等学校サッカー選手権大会	全国ベスト8

## 全国高校サッカー選手権試合結果

### ◎12月31日(土) 1回戦

滝川二 2 (  $\begin{matrix} 2-0 \\ 0-0 \end{matrix}$  ) 0 秋田商  
(山田、本田)

### ◎1月2日(月) 2回戦

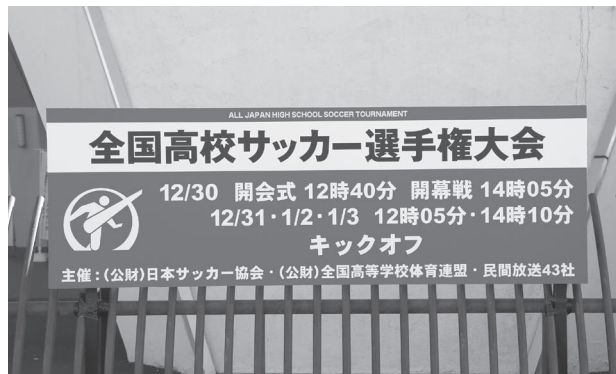
滝川二 6 (  $\begin{matrix} 2-0 \\ 4-0 \end{matrix}$  ) 0 大分  
(今井、江口、稲田、溝田2、神宮)

### ◎1月3日(火) 3回戦

滝川二 5 (  $\begin{matrix} 2-0 \\ 3-0 \end{matrix}$  ) 0 佐賀東  
(山田、辻本、溝田、中森、持井)

### ◎1月5日(木) 準々決勝

滝川二 0 (  $\begin{matrix} 0-1 \\ 0-1 \end{matrix}$  ) 2 前橋育英



# 全国選手権大会

3年 今井 悠 樹

全国選手権大会。それは僕にとって夢の舞台であり、目標でした。この選手権で優勝する為に滝二に来て、実際にその大会に出れるなんて県大会を優勝した時は夢の様で本当に最高の気分でした。6年前全国制覇を成し遂げた姿をテレビで見たり、今回応援リーダーでもあった岡崎さんに憧れて滝二を選びました。選手権は本当に沢山の方々に応援、サポートして頂いて、ピッチの上では思いつきプレーする事が出来ました。選手権を1試合1試合戦っていくとチームとしての一体感が本当に高まっていると今までに無い一体感を肌で感じる事が出来ました。誰かのミスは全員で助け合う。ゴールを決めたら全員で喜ぶ。1つになる事がこんなにも心強く、こんなにも怖いものが無いんだと改めてさ感じる事が出来ました。ピッチでプレーした自分は楽しくて仕方が無かった。だから応援して下さい、チームメイト、保護者、OB、学校の先生、他にも滝二に関わる全ての人に心の底から感謝したいです。

僕達はベスト8という結果に終わってしまいましたが、もっと最初の頃からもっと全員が本気になって選手権期間中の様な一体感を持って日々のゲームに取り組んでいたらもっと上に行けたと思います。もっとサッカーを教えて貰っていたら僕達は絶対結果が出せたと思います。可能性があるチームだったと思います。だから後輩達はサッカー以外の事で怒られる事なく、サッカーだけに集中出来る環境を、自分達で作って、サッカーだけを教えて貰えるように頑張ってください。

僕達の失敗、経験が無駄にせず、常に上を目指して、必ず埼玉スタジアムで優勝して下さい！



祝ベスト8！思い出のロッカールーム



## 兵庫県高校サッカー選手権試合結果

### ◎10月16日(日) 2回戦

滝川二 7 - 0 加古川東  
(本田3、辻本、山田、江口、持井)

### ◎10月23日(日) 3回戦

滝川二 6 - 1 県立伊丹  
(今井、本田、山田、持井、溝田2)

### ◎10月29日(土) 準々決勝

滝川二 2 - 1 神戸科技  
(神宮、江口)

### ◎11月6日(日) 準決勝

滝川二 3  $\left( \begin{array}{c} 1-0 \\ 2-0 \end{array} \right)$  0 報徳学園  
(山田2、江口)

### ◎11月13日(日) 決勝

滝川二 4  $\left( \begin{array}{c} 2-0 \\ 2-1 \end{array} \right)$  1 市立尼崎  
(山田、溝田、江口、中森)

# 兵庫県選手権大会

3年 山田 裕也

三冠達成のラスト一冠でとても気持ちのこもる試合が多かったと思います。どんな相手にも驕ることなく立ち向かい最後まで戦いました。試合をすることでチームが一つになり、練習、アップの雰囲気がとても良かったです。その雰囲気のまま試合に挑むことができ、澁刺とプレーできていました。厳しい試合になったのは準々決勝の科技戦です。勝っていても相手の緩むことのない攻撃を受け全員がチームのために体を張り戦い勝利を掴めたのが今大会の大切な試合だったと思います。

準決勝でも相手は強く難しい試合になりましたが応援、ベンチ、ピッチに出ている選手全員が一つになり決勝に向けて良い試合になったと思います。そして決勝ではテレビや、多くの人が観戦しているなかでの試合で緊張している人もいたのですが楽しむことを忘れることなく怯まず、驕らず、澁刺とプレーでき優勝することができました。この大会を通じて僕自身多くの人に支えられていると感じました。また、チームの団結の力というのにもすごいパワーがあることを学びました。大会というのは運と勢いこの二つが重要になってきます。だから僕達は小さなことからこだわり運を味方につけるようにしてきました。「神は細部に宿る」この言葉を胸に私生活から意識して行動も変わりました。

勢いの部分では全員が声だし、元気に楽しくすることで雰囲気がよくなり勢いがつきます。やはり大会というのは大切なことがたくさんあり、学ぶことがたくさんありました。僕達三年生にとって県大会優勝でき、全国に行けることはほんとうに嬉しく幸せでした。応援、支えてもらった人に感謝の気持ちしかありません。本当にありがとうございました。



いくぞ「全国」



歓喜の瞬間

# 12日間の青春 (第95回全国高校サッカー選手権)

滝川第二高等学校 サッカー部顧問 二宮 由佳理

「泣くなあ!!」「泣くなよ!!」「おい、泣くなよお!!」「泣くなああ!!」

応援席から、フィールドに立つ選手に向かって大声で叫んでいる生徒たちの声を、爽やかな気分で聞いていた。負けたにも関わらず涙が出なかったのは、この準々決勝まで全力で闘い抜いたからだと思う。応援に駆けつけて下さった滝二の先生方の温かい笑顔も、脳裏に焼き付いている。ピッチで涙をこらえている選手たちが、誰よりもたくましく見えた。

12月26日朝6時、学校に集合し、選手30人・マネージャー2人・スタッフ3人で、12日間過ごすことになる関東方面へ向かった(後にマネージャー1人、トレーナー2人と合流)。自分の中での目標は、「後悔しないよう全力で支援する」。静岡で過ごした最初の2日間は強風と大雨と深い霧で体力を奪われたが、その後の関東で過ごした9日間は晴天が続いた。神様が選手を応援してくれているようだった。

遠征はかなりハードなものだった。何1つ妥協したくないというスタッフの意志は、大変強固なものだった。身を削ってでも全てにこだわり続けることができたのは、選手1人1人の成長を間近で見られたからではないか。選手の頑張りが、いつも私たちスタッフのエネルギー源だった。今回、優勝出来なかった結果については、スタッフで反省しなければならない。しかし、「選手と一緒に青春した」という松岡先生の言葉は私たちスタッフの全てを物語っていた。私たちが前橋育英戦で泣かなかったのは、12日間の青春に全力を出し切ったからだろう。

毎日を共に過ごす中で、選手の心がひとつになっていくのを感じた。選手の顔付き、発する言葉、行動が変わった。また、ゴールを決めた後の持井君のホッとした表情、江口君のチームを思う優しい目つき、藤森コーチの厳しいながらも愛情のある言葉を受け止める山野君、廣田君、加藤君の眼差しは、二度と忘れられない。毎晩行ったミーティングの中で、常に目標は「全国優勝」だった。映像を鑑賞したり、OB・マスコミの方の話の聞いたり、意見を述べ合ったりするミーティングで、松岡先生が発したある言葉が印象的だった。勝つことしか考えていない中で、一度だけ負けたときの話をした時だ。「負けても絶対泣くなよ。泣くくらいならもっとやれ!」私は、万が一負けることがあって泣いている選手を見たら、応援席から「泣くな」と叫ぼうと思った。だが、結局その必要はなかった。選手にも、松岡先生の言葉が響いていたのだろう。

選手のサポートをして下さっていた周りの方々には感謝してもしきれない。遠方から応援に駆け付けて下さった保護者・OB・学校関係者の方々、大浴場の時間調整・食事のメニュー変更・トーナメント表や最新記事の掲示等、常に連携を取り、共に闘って下さった宿舎の方々、ホテルや練習場まで足繁く取材に駆け付け、感動的な映像を今回の滝二選手権のためだけに作成して下さったマスコミ関係者の方々、夏のインターハイでお世話になった広島の宿舎やお好み焼き屋からのFAXや差し入れ…。ここには書ききれない程多くの方々の応援が、選手の大きな力になった。そして、お世話になった方々に心から感謝している選手たちを見ると、目標としていた「心あるチーム」になったのを実感した。選手たちの12日間での成長は、計り知れないものだった。

毎試合、皆で「できる」と10回唱えて試合に臨んだ1年間。「できない人は言葉で説得し、できる人は行動で説得する。できない人は過去にこだわり、できる人は未来にこだわる。できない人は不可能と思ひ、できる人は可能と思ふ。できない人は一人で頑張り、できる人はみんなで頑張る。」この選手権は、全国ベスト8という行動で説得し、一試合一試合、勝っても驕らず常に次の試合を見据え、勝つことは可能だと思ひ、そして、みんなで頑張った。この先皆が大学生になり、また社会人になっても、何事も「できる」と信じて前向きに進んでほしい。また、負けた悔しさは、将来の糧にしてほしい。サッカーを続ける人は次こそ優勝するように、勉強を頑張る人は得意分野を突き詰めるように。最後のロッカールームで、皆の涙として溢れ出た悔しさは、他の人には得られない財産となり、秘めた魅力となるだろう。

最後になるが、皆のおかげで悔いのない充実した12日間を過ごすことができた。ありがとう。「心あるチーム」は解散しても、「心ある人」として未来へ歩いて行ってほしい。皆の活躍を陰ながら応援しています。



# 〇〇 自分の夢へ向かってGO!! 〇〇

31回生の3年間の思い出を掲載します。

## 滝二での3年間を終えて今思うこと 3年 井田 颯斗

僕は滝二で3年間を過ごして最高の仲間に出会い、他の高校ではできない経験をさせてもらいました。このような経験ができたのも、家族、スタッフ、学校の先生方をはじめたくさんの方々のサポートがあったからです。チームとしては県内三冠をし、インハイと選手権で全国大会に行けたことは自分達の目標を達成できたのでよかったです。個人的には、怪我が多くてサッカーができなかったり、試合に出られなかったりで悔いが残ってしまいました。後輩達には悔いを残さないよう1日1日を大切に過ごしてほしいです。そして怪我をしないことを第一に頑張してほしいです。これからも感謝の心を忘れず心ある人になれるよう頑張っていきます。そして、僕自身が味わった滝二での悔しさをバネに大学では頑張りたい。3年間ありがとうございました。



## 愛してる滝二

滝川第二高校での生活はあっという間でした。

自分は入学した当初一番下手くそでした。先輩などからも厳しい言葉をたくさんいただきました。好きだったサッカーを何度も嫌いになりました。逃げたいと何度も思いました。最初はこんなに高い意識でサッカーをしている人達を見て驚くこと感心することがとても多くありました。1年生の頃はとにかく何も言われなくなるようになり必死に練習しました。それでも試合に出ることや遠征に行くこともあまりありませんでした。

1年生の時選手権を見て自分もこんな環境でサッカーがしたいと強く感じました。そして3年になり自分たちの学年になり選手権に出ることができました。

みんなでミーティングをよくしたのもすごく思い出です。自分は選手権の舞台に立つということはできなかったけれどチームとしてみんなで活動できたこと、みんなでいろんなことを共感し合えたことはとてもいい思い出になりました。

このような経験ができて本当に幸せです。

また滝川第二高校でサッカーが出来てよかったです。

3年間ありがとうございました。

## 3年 浦野 征志



## 僕のサッカー人生

滝二のサッカー部に入りサッカーをすることで僕のサッカー人生が変わりました。普通の学校では学ぶことができないようなことを学びとても貴重な3年間を送ることができました。

最初のほうは慣れないことが多くついていくのに必死でとてもしんどかったけれど自分なり考えたら上手くなれるかなど新鮮なことが多くそれがまた楽しくも感じました。

最後の1年では選手権に出場しベスト8まで行くことができとても嬉しく、また自分がどれだけ支えられてたかを感じました。今まで支えてきてくれた人のおかげで人として成長することができました。この3年間で学んだことをいかしてこれからも色々な事に挑戦してがんばっていきたいです。



## 3年 浦元 快斗

# 松岡徹物語。

3年 江口 颯

私、江口颯は無事三年間なにも問題を起こさずサッカー部として活動を終えました。

この三年間を振り返ってみても、辛いこと、苦しいこと、悔しいこと、気に入らないことも色々あったけどみんなで元気に楽しく過ごせた三年間はvery goodです。寮もenjoyでした。個人的には試合に出て活躍するために努力してきたし、本気で練習に取り組んだ三年間は僕にとって今となっては財産です。滝二でサッカーをしていく中で努力すればなにかしら結果はついてくるということもわかった。いつかこの経験は生きてくると思う。また松岡監督をはじめとするスタッフの方々には二年の時から試合に使ってもらい自分の可能性を広げることができました。Thanks!

but.僕は一つだけ後悔があります。どんなときでも主力として必要とされる選手になれなかったことです。監督の意図があってスタメンを外れるとかあるかもしれないけど、その中でもこいつは使わないといけな思われる選手になれなかった。プレーに波があったり、継続して試合に出れないことが多々あった。最後の選手権の舞台でも主力として全試合ピッチに立つことはできず悔しかった。

大学ではどんなときでも必要とされる選手になって全国の舞台でベスト8の壁を破れるように努力していきたい。

この三年間伝統ある滝二のサッカー部員としてプレーできたことを誇りに思い今後も心ある人を目指しがんばります。

最高の仲間に出会えてよかったです。

怯まず、驕らず、澁刺と!

ありがとうTK2さらばTK2



# ありがとう。

3年 神宮 浩気

友達、スタッフ、先輩、後輩、親いろんな人に支えてもらった3年間でした。

選手権で感じたことは、他人の為に頑張る大切さです。



出てるやつは出てない奴の為。出てない奴は出てる奴が100%以上の力を出せるよう応援したり、応援に来てくれてる、親の為。3年間指導してもらったスタッフの為。その力が強ければいつも以上の力を出せることが実感しました。

滝二で埼スタには行けなかったけど、三冠でき、インハイ、選手権にも出場できいい思い出ができてよかったです。

みんな、今までありがとうございました。

# Last soccer life

3年 奥野 虎太郎

俺の高校三年間はあっという間だった。今振り返ると、なにしてたんだらうという感じ。でもたくさん思い出があり、今でも思い返すと笑ってしまう。まずは、高校一年生。島から出て1人暮らしを始めたけど、慣れない生活に戸惑った。先輩との生活でいろいろあったけど、今では思い出。一年生の頃は、怪我ばかりだった。まずは手首を骨折し、その年の1文字「富」にちなんで富士山に登る予定だったが、断念するしかなかった。みんなと登りたかった。遠征も全然行けなかったし、充実しない日々が続いた。

そして、そんな感じに暮らしていたら、二年生になった。二年生になると、後輩もできて、先輩も優しくなったので、割と自由になった。そこで、気の緩みができたのか、また怪我生活が始まった。もうこの頃には、怪我キャラが完成しつつあった。でもサッカーできる時は本当に楽しかった。滝二のみんなはサッカーめっちゃうまいし、滝二を背おってプレーすることは、わくわくした。二年生は、靱帯の年だった。半年くらい怪我でサッカーできなかった。外から見てるとみんなが成長してるのが分かるし、楽しそいで悔しくて仕方なかった。このままで大丈夫かなとか考えた時もあった。でもやる事を探してやったという記憶がある。そして最後の年。絶対に自分のためにも親のためにも、試合に出たいという気持ちがあった。が、実際はそんなに甘くなかった。二年の時から遅れをとって、普通にBチームだった。でも、毎日、一生懸命取り組んだ。というか、シンプルにサッカーすることが楽しかった。めっちゃ雰囲気良かったし、三年同士仲よかったから楽しくプレーすることができた。県リーグは、本当に楽しかった。ユニホームを忘れる試合もあったが、相手を想定して1週間作っていく感じが好きだった。国際戦が、人生ベストゴールかな。啓伍がキャプテンやっててチームをまとめてくれたから優勝できたと思う。あの時黒田先生に水かけれてよかった。Aチームには、ほとんど縁がなかったけど、Aでプレーできてる時は、やっぱチームの代表ってことで、全然重みが違うし、ほとんど三年やから楽しかった。選手権では、メンバー入れてもらって、練習も調整もホテルもめっちゃ楽しかった。ピッチ立った時の雰囲気は独特で、あんな雰囲気一生味わえんと思うし、いい経験になりました。やめたいなとか思った時もあったけど、ほんまに滝二来てよかったなと思います。今まで携わってくれた、顧問の先生、選手、沢山のグラウンドには感謝しています。ありがとうございました。



## 幸せを掴むまで

3年 宮本 啓伍

滝川第二高校に入学して引退するまで多くの経験をする事ができました。Bチームですごした時間がほとんどで、その中で悔しい思いであったり「辛い」思いをたくさんしました。だけど、最後の県リーグ2部で優勝できた時はすごく嬉しくて、今までBチームで腐らずに頑張ってきて良かったなと思いました。そして最後の選手権では、全国の舞台でピッチに立つ事ができた時は「辛い」から「幸せ」に変わった瞬間であったのかなと感じました。

3年間ありがとうございました。





## 感謝

3年 杜 博 陽

滝川第二高校サッカー部についてこの間入ったと思うぐらいこの3年間は早く過ぎました。

しかし、この3年間は1日1日が本当に濃い3年間でした。

正直、楽しいことよりも辛いこと、しんどいことの方が多かったけどこの最高の仲間と全国優勝を目指して頑張ってきた3年間はかけがえのない一生の宝物。

僕はBチームにいた時間が長かったけどそこで腐ったらダメだと思い、毎日頑張りました。

県リーグ二部の最終戦の劇的な試合は一生忘れることはありません。

僕たちは走りやしんどい練習のときも手を抜くことなくやったから県内三冠獲れたと思います。最後の選手権では負けたときはスタンドで応援していて、ホイッスルが鳴った瞬間は本当に辛かった。でも幸せを感じました。それは、仲間が最後まで諦めずに走り続けたからです。目標に達成することはできなかったけど良かったと思います。

3年間、成長させてくれた滝川第二の関係者の皆様、滝川第二に通わせてくれた親、3年間ありがとうございました。これからも感謝の気持ちを忘れずに生きていきたいです。



## 感謝

3年 名 倉 圭一郎

3年間本当に苦しかったです。

親には感謝してもしきれません。

スタッフの方々も病院など急遽連れていってもらい、本当にお世話になりました。

ありがとうございました。

1、2年生は悔いなく終われるようにこれからも頑張ってください。

3年間ありがとうございました。



## 3年間の高校サッカー

3年 本 田 周 作

高校3年間の滝二でのサッカー生活は楽しいこともたくさんあったけど、しんどいことや悔しかったことの方が正直多かったです。

でもみんなで走りの時は声を出して盛り上げたり、苦しいこともみんなと乗り越えられたと思います。

正直自分はサッカーをはじめた時から高校2年まで自分の結果のことばかり考えながらサッカーをしてきました。しかし、高校3年生になると自分のことも考えながら、チームがまとまることやチームで戦うことをよく考えるようになりました。人間的にとても成長してきたと思います。県リーグ2部での優勝した時は最後の試合、勝った時は今までで一番感動しました。総体県予選優勝したとき、夢だった選手権に出場できたことは僕の一生の宝物になりました。

偉大な先輩が多く、数々の歴史ある滝川第二高校で3年間サッカーできたことを誇りに思います。

3年間ありがとうございました。



# とことん上を

3年 持井 響太

僕の高校サッカーは最高でした。最高の仲間、スタッフ、環境に出会えて、最高の舞台でサッカーができたからです。そして、自分がこの3年間で1人の人間として大きく変わったことも、滝二おかげです。

1年生の頃は上下関係が厳しく、サッカーが楽しくない時期もありました。わざと怪我して帰ってやろうかと思ったりもしました。今思うとアホらしいと思いますが、当時は本当にメンタル的にきつかったです。その時に、中学時の所属していたチームのコーチからのメッセージを読み返し、そこには、「とことん上を」と書いてありました。深い意味が込められていると感じて、サッカーをやるからには1番を目指さないと意味がないと改めて実感させられました。それから僕はその言葉を忘れずに高校サッカーを続けてきました。1年生で選手権に出させてもらい、人より多くの経験を積めたことや、2、3年になってから3度の全国出場を果たしたこと、全て自分にとってプラスになることばかりでした。

また3年生になると、最上級生の自覚が始め、自分がチームを引っ張るんだという強い気持ちもできてきました。そのせいか、考えすぎてしまい自分の得意なプレーが上手く発揮できず、得点が取れない時期も多々ありました。自分はメンタルがまだまだ弱かったので、そのような責任や重圧に負けてしまっていました。そこでスタッフから無心になれというアドバイスをもらい、少しづつ自分のプレーが戻ってきました。なのでこれからは無心でガムシャラにサッカーをしたいと考えています。

最後に、31回生は県内3冠、全国選手権ベスト8という記録に終わりましたが、後輩達にはこれに満足せず、県内3冠+プリンス昇格、全国選手権では埼玉で勝つという目標を変えずに日々努力してほしいです。でも、簡単に成し遂げられるタイトルは1つもないので、気を抜かず、チャレンジャー精神で、大会、リーグ戦に挑んでください。

また、僕らの記録を抜くので満足せず、さらなる高み、とことん上を目指してください。



# 幸せになるために

3年 森 勇人

「幸」という一文字に決まり一年が始まった。この一年はサッカーができない時期があったり、チームとして中々まとまらない時期があったりで苦しい時間がとても多かった。個人としても怪我で試合に出られないことも多く、この三年間で一番しんどかった。サッカーが本当に嫌いになってやめたいと思ったことも多かった。でも、最後の選手権は本当に夢のような時間を過ごすことができたし、この舞台に立つた



めに苦しいことを乗り越えてきたんだと感じた。そして家族の支えをなくして選手権のピッチに立つことはできなかったと思う。どれだけプレーが悪くても褒めてくれた。だから家族には感謝。

後輩たちも苦しいこともたくさんあると思うけどそんなときはチームプレーで助け合い乗り越えてほしい。幸せはチームで大きな壁を乗り越えた先に待っていると。感謝の気持ちも忘れずに!

# 三年間を振り返って

3年 八本 侑希

まず、三年間たくさん応援していただきありがとうございました。

高校生活で一番頑張っていた部活動が終了しました。サッカー部での多くの出会いが私の財産です。中でも、仲間の存在が私の力になりました。怪我で思うような動きができず、試合に出ることができない。文武両道の難しさが理由で、肉体的・精神的にサッカーを続けることがしんどい時もありました。しかし、ここまで続けられたのは、私を支えてくれる仲間がいたからだと思います。本当に感謝しています。

今、考えれば試合に出ることができなかった時は、「身長が低いから」と言い訳をしてしまったことだと思います。身長が低い分、「早く動く、もっと飛ぶ、キックの精度を上げる」といった努力を妥協していたところがあったかもしれません。これからの人生、もっと自分に厳しくして夢を実現していきたいと思っています。

三年生の選手権には、メンバーに入ることができました。三年生中心でサッカーができたのが楽しく、充実した時間でした。自分のベストを尽くし、ベスト8になれたことは私の誇りです。

また、後輩たちには、私たちの結果を超えて全国制覇をしてほしいです。

松岡監督はじめスタッフの皆さま、色々な経験をさせていただきありがとうございました。

卒業後は「心ある指導者になる」を目指して頑張ります。そして、いつか滝二へ……

応援よろしくお願ひ致します。

三年間お世話になりました。



# 人生の宝

3年 森下 義雄

滝二でサッカーをしてきた3年間はあっという間でした。この3年間は楽しいこともありました、苦しいことや悔しいことが多かったです。でも、それ以上に滝二で多くの良い経験をすることができました。

応援する選手の気持ち、ベンチの選手の気持ち、試合に出る選手の気持ち、いろいろな立場を経験することができました。また、副キャプテンとしてチームがまとまることがどれだけ大切かということも知ることが出来ました。

僕達は、兵庫県三冠を達成し、選手権ではベスト8という結果を残すことができました。それは、チーム全員がまとまったこと、そして良い準備ができたからだだと思います。1、2年生は、この結果に満足せずさらに上を目指してやってください。

僕は本当に滝二に来てよかったです。最高の仲間、最高の監督、コーチ、トレーナーに出会うことができました。でも、やっぱり一番感謝しているのは、お父さん、お母さんです。いつも側で支えてくれました。本当にありがとうございます。僕の人生にとってこの3年間は宝物です。そして、滝二でサッカーをすることが出来て誇りに思います。

3年間ありがとうございました。

心ある人

怯まず、驕らず、澁刺と!





# 宝物。

3年 今井 悠 樹

本当に僕達の学年は個性が強くなかなかまとまりませんでした。1年生の頃は挨拶が出来ない、準備が出来ていない、など沢山怒られて先輩に沢山の迷惑をかけてきました。2年生になっても同じ事で何回も怒られ、何回もミーティングをしてまた怒られての繰り返しで、2年生なのにまだ名前Tシャツを着ていました。3年生になっても挨拶は出来ない。人が前で話をしている時は顔を上げろと言われても顔が下がっていて何回も注意される。なんで何回も注意されるんや。なんで当たり前の事が当たり前に出てひんのや。と思うことが沢山ありました。正直この3年間はそんなオフの事で悩む事の方が多かったです。でもそれはどうしたら改善出来るか、どうしたら良くなるかなど皆んなで話し合い、工夫する事が大事なんだな。とすごく感じさせて貰う事が出来ました。でも僕達は話し合いをするけど、本気で言い合えなかったり、口先だけで行動に移せなかったりであり改善される事はありませんでした。だから後輩達にはしっかり思っている事を口に出して、本気で言い合って、自分達が決めた事はしっかり最後まで貫き通して欲しいと思います。それがチームは常に良い状態で進む事ができ、僕達の様に波の無いチームが出来て行くと思います。

楽しい事より苦しい事の方が多かったこの3年間でしたが、絶対どこの誰よりもどこのサッカー部の選手よりも本当に沢山のいい経験を積むことが出来たと思います。色んな遠征に参加させて貰ったり、富士山に登ったり、岡崎さんに話を聞く事が出来たり、杉本龍勇さん、鬼木祐輔さんなどのサッカーに活かせるまた違ったご指導を受ける事が出来たり。

そこで感じたのはやっぱり滝二ってすごいな。めっちゃ恵まれてるな。という様な事が思い浮かびました。沢山のプロを排出している滝二だからこそ出来る事であったり沢山のOBの方々の支えがあって、出来ている事が沢山ありました。そういう沢山のOBがいてこそ今の自分達がいると思うので、この滝二である事を誇り思います。同時に後輩達にもその滝川第二高校サッカー部の一員である事に誇りと責任を持って行動し、また新たな歴史を刻んで行って欲しいなと思います。



この3年間は僕の人生にとってとても大きな財産になりました。キャプテンという大役も任せてもらい、1人の人間として本当に大きく、逞しく成長する事が出来ました。ここでの3年間の全てが宝物です。本当に最高の仲間。スタッフ。保護者に巡り会えた事を心から感謝しています。これから先の人生で苦しい事があってもここでの3年間の思い出して必ず活かす事が出来ると思います。本当に3年間ありがとうございました。

# 幸

3年 木村 諒

3年間楽しいことばかりではなく苦しいことの方が多かったけど3年間続けてきたことが自分の成長につながったと思います。立派な大人になりたいです。

木村プライド。



# 幸

3年 山田 裕也

幸せになるために多くの辛いことをみんなで乗り越えてきました。走りの練習は少なかったけど、対人の練習が多かったです。すごく辛く、しんどい練習でしたが、三年生を中心に声を掛け合い助け合い最後までやりました。幸せになるには一人だけではなれないことだし、たくさんの人とで助け合い多くの困難を乗り越えていくことで幸せを掴むことができると実感しました。僕達の学年はとても楽しい学年で一人一人個性が豊かで面白い学年でした。誰か一人でも欠けてしまうとイケないこの21人全員がいないとイケないと思います。一年のときでは広島遠征に行ったり二年のとき愛知に行きたくさんの経験もさせてもらいました。初めの頃は自分達の代で全国に行けるのかも不安ばかりでしたが最終学年になると兵庫県三冠を達成できたし、全国の舞台でも勝てることもできました。このベスト8という成績は良いのか悪いのかでなく、自分自身は選手権という舞台で楽しめてチームが一つになって勝っていくことがなによりも楽しい時間だったので幸せだったと思います。新チーム当初はチームがバラバラで一つになることがなかなかできなかったチームでした。けれど新人戦から勝っていき優勝することでチームが徐々に一つになってきました。そして夏の総体では、神戸国際戦のとき相手に先制された中、同点に追いつき、逆転できたのが僕がチームが一つになっていると思った試合でした。そして勢いに乗ったまま総体も優勝することができました。全国大会では瀬戸内高校の試合では滝二のモットーの一つである「驕らず」が欠けていたと思います。その試合の敗戦から自分自身滝二のモットーをもう一度見つめ直すことができ、『怯まず 驕らず 澁刺と』を意識して私生活を送ることができたと思います。最後の大会選手権では、僕としてモットーを持って滝二らしく試合をできました。けれど僕達在必死に練習してもベスト8の壁は越えられませんでした。だから次の三年生にはベスト8の壁を乗り越えて埼玉スタジアムに行ってほしいと思います。

最後に自分だけでなく、多くの人に『幸せ』を与えることができたと思います。だから僕達の一文字はとても良い一文字でした。松岡監督をはじめ多くのスタッフに恵まれました。本当にありがとうございました。



## 私の3年間

3年 大亀 笑奈

マネージャーに憧れて入学し滝川第二高校で3年間を過ごして、本当にたくさんの経験をする事ができました。みんなが全国で輝いているところを見たいと一心で毎日を過ごしました。マネージャーが1人だったときでも大変と思ったことはないしとても充実した毎日でした。苦しいときもみんなが頑張っている姿や笑っているところを見ていたら乗り越えたり救われることもたくさんありました。

最後の1年は、マネージャーを全力で全うすることもできない環境で、マネージャーを続ける意味があるのかと考える日が続いたとき、支え励まし続けてくれた両親と岡先生黒田先生には、3年間全力でやりきることができなく申し訳ない気持ちでいっぱいです。

1年生の頃から「選手権連れていく。」と言い続けてたくさんの全国大会に連れて行ってくれた31回生には感謝してもしきれません。

楽しい毎日をありがとう。

31回生のマネージャーでよかった。

3年間本当にありがとうございました。



# 最後の選手権

3年 溝田 大輝

選手権は、自分にとって、憧れの舞台でした。選手権の舞台に立ちたい！活躍したい！という気持ちがあって、滝川第二高校を選び入学しました。でも、選手権の舞台に立つということは、そんな甘いものじゃなくて、一年の時は、メンバーに入れず、二年の時は、県大会で負けてしまいました。そして、ラストの三年目でやっと、選手権の舞台に立つという目標が叶いました。苦しい県予選をチーム一丸で勝ち上がり、第95回全国高校サッカー選手権に出場することができました。そして、選手権のピッチに立つことができました。選手権のピッチでプレーをして、やっぱり、選手権は、雰囲気も含め特別な舞台なんだと改めて思いました。この選手権でプレーしたことは、一生忘れられないものだと思います。結果は、前橋育英に負けてベスト8でしたが、この選手権では、このチームのモットーでもあった「心あるプレー」というものが見せれたと思います。選手権前は、ボロボロだったチームが一戦一戦戦っていくうちにチームが一つになっていったから、勢いもでて、ベスト8までいけたのだと思います。僕は、正直、サッカーのことを全然知らないまま入学してきて、練習が難しかったり、苦しかったりしてサッカーを辞めたいと思ったこともあったけど、今、思えば、必要なことだったのだと思います。今年も、チームとしても、個人としても苦しい時期もあったけど、最後は、滝二の皆が「幸」せと思った年になったと思います。三年間滝二でサッカーが出来て、本当に良かったです。家族や三年間携わってくださった人たちに感謝して、これからサッカー人生に生かしていきたいと思います。



## 3年間を振り返って

3年 大矢 啓太

この3年間を振り返ってみるといろいろなことがありました。お腹をかかえて笑うことや楽しいこと、辛いことや悲しいことももちろんありました。ですがこの全ての経験がこれからの自分のためになると思います。なので、この経験を生かしてこれからもっと成長していきたいと思っています。

## 経験

3年 若林 空

3年間の経験をこれからの人生に活かしていく。





# 県リーグ

## ◎県リーグ 試合結果

### 1部

滝川二 3 - 1 センアーノ  
(稲田、持井2)

滝川二 2 - 2 関学  
(持井2)

滝川二 2 - 1 神戸弘陵B  
(今井、近藤)

滝川二 2 - 0 長田  
(持井、日野)

滝川二 6 - 1 三田学園  
(溝田3、上出、加藤、持井)

滝川二 4 - 0 市立尼崎  
(持井2、溝田、神宮)

滝川二 1 - 2 ヴィッセル神戸B  
(辻本)

滝川二 3 - 2 報徳  
(溝田 持井 本田)

滝川二 1 - 1 神戸科学技術  
(持井)

滝川二 4 - 1 センアーノ  
(加藤、井上、溝田2)

滝川二 1 - 6 長田  
(上出)

滝川二 7 - 0 神戸科学技術  
(江口2、溝田、持井、近藤、辻本2)

滝川二 0 - 4 神戸弘陵B

滝川二 4 - 1 関学  
(辻本、持井3)

滝川二 2 - 0 市立尼崎  
(朴、井上)

滝川二 3 - 2 報徳  
(神宮、加藤、井上)

滝川二 4 - 1 ヴィッセル神戸B  
(辻本、神宮、中森、持井)

滝川二 0 - 1 三田学園

### 3年 森 勇人

三田学園との最終戦に敗れプリンスリーグ昇格を逃した。一位三田学園との勝ち点差は3。今年の県リーグの戦いは波がありとりこぼしが多かった。相手に先制を許すと流れが悪くなり連続失点で大敗するというゲームはもったいなかった。先制されてから跳ね返す力がなかった。力不足だと感じた。

来年の県リーグでも苦しい試合は必ずあると思う。そういうときこそチームでまとまって必ずプリンスリーグへ昇格してほしい。



次こそ「プリンス昇格」頼むぞ!!



県リーグ2部「優勝」!! 最高の笑顔!!

# 四中工交流会

3年 森下 義雄

四中工交流会では、今年は四中工の素晴らしい芝のグラウンドで試合をさせていただきました。

一発芸大会では、四中工のレベルは高く、特に200パーセントの芸はとても面白くて滝二の選手も使うようになりました。

夜は、四中工の選手達と同じ部屋に泊まり、サッカーの話やプライベートの話など、かなり盛り上がりました。

学年対抗では試合も応援も盛り上がり最高に楽しい時間でした。

四中工は浅野選手を目標に、滝二は岡崎選手を目標に、お互いに切磋琢磨して、これからも深い交流を続け全国大会で活躍するための良い交流会をこれからも続けて欲しいと思います。



# 遠征

## ◎48大会初日

滝川二 3-0 遊学館高校  
(稲田2、溝田)

滝川二 2-0 愛知高校  
(辻本、井上)

## ◎コパ成立初日

滝川二 3-3 立正大湘南  
(足立、加藤、宮本)

滝川二 4-0 アルビレックス新潟  
(本田2、大矢2)

## ◎滝二ファミリーカップ初日

滝川二 1-5 県トレ  
(小山)

滝川二 3-0 明德義塾  
(山田2、神宮)

## ◎48大会2日目

滝川二 2-2 静岡学園  
(持井、廣田)

PK  
2-3

滝川二 2-2 帝京第三  
(持井、井上)

PK  
2-3

滝川二 1-1 前橋商業  
(山田)

PK  
6-7

## ◎コパ成立2日目

滝川二 1-3 流経柏  
(本田)

滝川二 3-2 金光大阪  
(森田、若林、岡田)

## ◎コパ成立3日目

滝川二 0-1 山梨学院

滝川二 1-1 前橋育英  
(宮本)

滝川二 3-1 成立学園  
(宮本、奥野、森田)

## ◎滝二ファミリーカップ2日目

滝川二 4-3 県立西宮  
(小山、山田、井上、溝田)

滝川二 3-0 御影  
(辻本2、中森)

## ◎滝二ファミリーカップ3日目

滝川二 1-1 センアーノ神戸  
(小山)

滝川二 3-1 橘  
(稲田2、小山)

# 関東遠征

## 負けた試合で学ぶことのできるチーム作りを目指して

滝川第二高等学校 サッカー部コーチ 岡 康 二

冬期遠征(12月24日～1月6日)

オーシャンカップを含め13泊14日の長期遠征を行いました。遠征前に練習で課題にしていた

「前向きフリーを作る、矢印をいろんな方向に向ける、右左真ん中を攻める」

「厚みのある攻撃をする」

後は、新チームの土台作りとして滝川第二高校の先輩たちが築き上げてきた良き伝統を引き継ぎ、チームとしてしっかりと課題を見つけミーティングを繰り返し行い、改善していくことも課題にしました。

しかし全国の強豪校と対戦してみて思っていたより自分たちはできていないということにも気づかされました。特に相手のプレスが少し強くなるだけで簡単なミスも平気にするし、質も落ちている。普段の練習の守備が甘いからいざという時に何もできないということと、相手の縦のパスやFWのスピードと警戒する気持ちが強く成ると自然にラインが下がり間延びしてしまった結果中盤でのプレスがかからなかったりセカンドボールが相手ボールになる場面が増え結果的に勝てないことが続いた。夜のミーティングで自分たちのビデオを見てそのことを改善していく方法を話し合った。次の日にミーティングで話し合った反省点を意識し試合に臨むと上手くいくこともあるが、また新しい課題も見つかっていくという繰り返しでした。この遠征では勝った試合よりも負けた試合の方がチームの成長のために価値があったと思います。オフザピッチでも強豪校と言われるチームは挨拶や礼儀、返事など全てにおいて学ぶことがたくさんあり、チーム作りとしてはとても参考になった遠征だったと思う。

その流れで選手権本番に入りましたが、チームカアップに伴いスタンドでの応援が県大会の時に比べてとてもよくなったと思います。学校生活が始まってこの経験を風化させることなく、トレーニングに励んでほしいと思います。



「全国」の舞台を目指し戦う「滝二」の戦士達!



「次は俺たちの番だ!!」



◎ 1日目 (30分×4) (オーシャンカップ前日TM)

滝川二 2 - 0 流経大柏  
(近藤、福嶋)

滝川二 2 - 1 流経大柏  
(近藤、長野)

滝川二 1 - 0 流経大柏  
(福嶋)

滝川二 2 - 0 流経大柏  
(長野、藤崎)

◎ 2日目 (オーシャンカップ1日目)

滝川二 1 - 2 聖和学園  
(福嶋)

滝川二 2 - 0 共愛学園  
( )

滝川二 0 - 8 前橋育英

滝川二 1 - 4 盛岡商業  
(古賀)

◎ 3日目 (オーシャンカップ2日目)

滝川二 0 - 4 湘南工科

滝川二 1 - 1 水橋  
(長野)

滝川二 1 - 0 桐生第一  
(竹内)

◎ 4日目 (オーシャンカップ3日目)

滝川二 2 - 1 共愛学園A  
(福嶋、長野)

滝川二 6 - 0 共愛学園B  
(古賀、藤崎2、道上、全、竹内)

滝川二 1 - 1 東海大高輪台A  
(長野)

滝川二 2 - 3 前橋育英B  
(竹内2)

◎ 5日目 (オーシャンカップ最終日)

滝川二 2 - 0 水橋B  
(森田、岩谷)

滝川二 0 - 3 青森山田

◎ 6日目

滝川二 4 - 3 盛岡商業  
(近藤、全、足立、長野)

滝川二 0 - 1 盛岡商業(一本)

滝川二 0 - 3 青森山田

滝川二 3 - 2 青森山田  
(近藤、青田、 )

◎ 8日目

滝川二 1 - 0 長崎総科  
(青田)

滝川二 0 - 1 長崎総科

滝川二 2 - 2 旭川実業  
(藤崎、岩谷)

滝川二 0 - 1 旭川実業

◎ 9日目

滝川二 2 - 2 流経大柏  
(近藤、全)

滝川二 1 - 3 流経大柏  
(近藤)

滝川二 0 - 6 流経大柏

◎ 10日目

滝川二 2 - 0 流経大柏  
(福嶋、岡田虎)

滝川二 0 - 1 流経大柏(30分)

◎ 11日目

滝川二 7 - 7 静岡学園  
(足立、全、近藤、岡田虎2、苜、岩谷)

滝川二 0 - 1 静岡学園(30分)



# 日々、向上心を持ち続ける

滝川第二高等学校 サッカー部GKコーチ 藤森 大介

2015年10月31日兵庫県サッカー選手権大会準々決勝神戸科技戦に2-4で敗れ、新チームの活動がスタートしました。私の2015年は、日々感じていた些細な事を口に出さず選手権を迎え、敗退してしまった事に悔いを残しました。そこで2016年は、自分自身が感じた事は細かい事でも、そのつど選手達に発言しよう。これが私のテーマとなりました。サッカーの事はもちろんの事、サッカー以外の面でも誰かが話している時の聞く姿勢、服装、挨拶、荷物の整理など気になる事は一年間かけて伝えるように心掛けました。一年かけても未だに出来ていない事も幾つかありますが、私自身忍耐強く言い続ける事の大切さを学ぶ一年となりました。去年許されていた事が、今年は許されないという事は、選手側から考えると受け入れ難い事もあると思います。しかし、昨年の記録を超えたいと考えるならば、レベルを上げる為に受け入れなければなりません。“神は細部に宿る”という言葉を用い、日々私生活から細かい事に注意を払い、意識し続けました。

2016年の滝二は、調子の波が大きい事が課題でした。負ければ終わりのトーナメントを勝ち抜く為、リーグ戦を優勝する為には、チームとして高いレベルのパフォーマンスを維持し続ける事が大切です。新人戦、総体、選手権の兵庫県内三冠を達成できた事は、日頃から選手個々がしっかりとセルフコントロール出来た事が勝因です。兵庫県1部リーグでは、いくつかの取りこぼしがあった為、優勝する事が出来ませんでした。2017年は、リーグ戦でも常に高いレベルを発揮し続け、勝ち続けなければ2016年同様に優勝もプリンスリーグ昇格も難しいでしょう。

最後の選手権では、選手達が全国大会を一戦一戦戦う中で、成長していく姿が見て取れました。チームがまとまる事と勢いを付ける事の重要性も再認識する事が出来ました。その甲斐あって全国ベスト8という記録を残せたのでしょ。しかし、勢いだけでは日本一にはなれないという事も痛感させられた大会となりました。選手権前だけ頑張る、選手権中だから頑張るでは、全国の強豪校を退け勝ち上がる事は出来ません。今からコツコツと未来へ向けて準備する必要があります。日々、もっと上手になりたい、もっと強くなりたいと向上心を持ち続ける事。日本一の練習が行える、日本一の紅白戦が行えるチームこそが、真の日本一になれるのではないのでしょうか。

だから2017年は、昨年の記録に満足することなく、チームとしても、個人としても更に高い目標を設定する必要があります。やるからには、日本一を目指したい!その為には、強豪校に怯まず、去年の記録に驕ることなく、どんな時でも澁瀨と感謝の気持ちを持ってプレーしてもらいたいと願っています。

※3年生へ、高校サッカー選手権大会は人生の最終ゴールではありません。あくまで通過点です。大学、社会人とステージが変わっても、常に目標設定を忘れずに、向上心を持ち続けて立派な大人になって下さい。たまには滝二に帰って来て、大学サッカーはどんな事をやっているのか後輩たちに教えに行く事もOBの役目ですよ。3年間お疲れ様でした。



# 台湾遠征

## 人間至る処青山有り

滝川第二高等学校 サッカー一部元監督(現台湾代表監督) 黒田 和生

男児志を立て郷関を出ず 学若し成る無くんば復還らず  
骨を埋むる何ぞ墳墓の地を期せん 人間いたるところに青山あり

世の中は広く死んで骨を埋める場所ぐらいはどこにでもあるのだから、大望を成し遂げるためにはどこへ行っても活躍するべきである。

31回生の皆さんご卒業おめでとうございます。滝二という湖から大海原への旅立ちですね。期待していますよ。偉大な先輩たちを超える大活躍と貢献を。何年かかってもいい。自分の夢を実現させましょう。大小の問題ではない。サッカーという潮流に乗ってもいいし乗らなくてもいい。自分次第です。

今や人生は90年。そうサッカーと同じ90分ゲームです。諸君はまだ前半の18分ごろ。ゲーム、人生は始まったばかり。既に失点の多い人はいませんか?あきらめることはない。充分追いつける時間はありますよ。逆に、もうたくさん点を取ったと安心している人はいませんか?手を抜くと後半に逆転を食らいますよ。

そのうち守るべき家族を持つでしょう。そのあたりから人生は面白くなってきますね。いやいやサッカーで面白いのは終了10分前だよ。その通り。そこまで人生を楽しみましょう。“怯まず、驕らず、澁刺と”



いつも子供達と一緒にだよ(2016年11月)

## 台湾遠征

1年 古閑 虎太郎

1年生は1週間台湾での海外遠征を経験しました。台湾ではサッカー面だけでなく精神面も大きく成長することができました。また、チームで「同じ絵をみる」をテーマにたくさんの台湾中のスポットを見学したり、たくさん話したりしたことで遠征前よりもチームの関係を深めることができました。

滝川第二の前監督の黒田和生先生をはじめ台湾では本当にたくさんの方々にお世話になりました。そしてこの台湾遠征を通じて一番感じたことは「心の大切さ」です。台湾人は日本人に優しく、声をかけてくれたり、おもてなしをしてくれました。またサッカーでは技術よりも試合に対する熱い思いを感じました。僕達1年生にないもの、そして今後必要なものを台湾の人達から学ぶことができました。もちろんサッカー面でも成長しました。1日目はPKで勝てたものの4失点してしまったり攻撃面でもうまくいかないことが多くありました。なのでその夜1年生全員で2時間以上のミーティングをしました。その甲斐あって花蓮農高との試合は気持ちの入ったプレーをすることができ、手ごたえを感じることもできたのも貴重な経験になりました。

黒田先生からはたくさんのお話を聞かせてもらいました。1年生の表情や返事や行動が遅いなど、主に生活面を注意してもらいました。今後も意識していきたいです。そして最後に「少年のような心を持ち、大人のサッカーをすること」と言う言葉をいただきました。本当に内容の濃い1週間で過ごすことができました。この経験を今後の人生の糧にしていきたいです。謝謝



# 平成28年度兵庫県高校サッカー三新人大会

## ◎2回戦

滝川二 2 - 0 長田高校  
(日野、朴)

## ◎準々決勝

滝川二 1 - 0 明石商業  
(中森)

## ◎3回戦

滝川二 4 - 0 市立西宮  
(上出2、中森、全)

## ◎準決勝

滝川二 0 - 2 三田学園

## 新人戦

2年 稲田 丈太郎

新人戦は準決勝で三田学園に0-2という結果だった。

三田学園戦は、どこから攻めるのかということを一統できていなかったし、連動した攻撃、守備ができず、チームとしてまとまりがなかった。選手権が終わってミーティングをしていたけど、もっと本気でいろんなことを考えて、意識を変えようとしなないといけないし、そういうところの甘さが出た試合だと感じた。

新人戦を通して決定力不足という課題も出たので改善していきたい。サッカー以外の部分からもう一度見直して、インターハイ、選手権では滝二らしく戦いたい。



頼むぞ! 「新キャプテン」



ドリブルでサイドを切り裂く!



ゴールへ向ってドリブル突破!!



「輪」への第一歩!

# 新役員のおいさつ

## 【2017年度 父母の会 役員名簿】

会 長	島 孝市	書 記	宮島 繁成
	尚代		孝子
副 会 長	榎谷 伸也	本部会計	小山 象司
	文子		奈美子
	柏原 修	学年会計	日和 弘
	芳野		喜美子
広 報	石川 均	会計監査	西垣 美和
	朋子		
	赤瀬 真哉		
	由佳		
	全 明康		
	富美		

新役員の方々、  
一年間宜しく願います。

## 新会長のあいさつ

新会長 33回生 島 和暉 父 島 孝 市

2017年度父母の会、会長を務めさせていただきます島です。宜しく願い致します。

伝統ある滝川第二高校サッカー部の父母の会、会長を引き受けるにあたり責任の重大さを感じております。

昨年度はインターハイ・ベスト16、選手権・ベスト8という素晴らしい成績を残されました。本年度もそれ以上の成績を持続させる事で「強い滝二」を取り戻すことが出来るのではないかと考えております。

その為には、松岡監督をはじめスタッフの皆様、選手、マネージャーをサポートする事が不可欠です。父母の会の皆様で総力を結集し一つの「輪」となり、県内三冠、全国制覇という目標を達成出来ますよう、全力でサポートして参ります。

最後になりましたが、OBの皆様、OBの父母の皆様、そして多くの滝二サポーターの皆様には、いつも応援していただきありがとうございます。本年度も引き続き、御力添え頂きますよう宜しく願い致します。



# 役員を振り返って

## 父母の会会長退任にあたり

32回生 森田 玲司 父 森田 一司・母 友子

早いもので、父母の会会長という大役を拝命し、1年が経ちました。

至らぬことばかりで、選手、指導スタッフ、父母の会、OBの皆様方には、数々のご迷惑、ご不便、ご心配をお掛けいたしました。深くお詫びいたします。そして、こんな力量不足の私どもでも、どうにか務めることができたのは、ひとえに皆様方の温かいお力添えがあったることと、心より感謝しております。この1年間、チームは県内3冠をはじめ、全国大会への出場を2度果たし、インターハイではベスト16、選手権ではベスト8と素晴らしい成績を収めてくれました。正直申しますと、会の運営においては行事が目白押しになり、大変な面もありました。しかし、各学年役員の皆さんを中心とした強力なバックアップのおかげで、とても楽しく、そして充実した、『幸』に満ち足りた時間を過ごすことができました。私ども二人にとっても、これまでにない貴重な経験や、新たな方々との出会い、喜怒哀楽の共有を通じて、自身の世界の広がりを感じることができた1年間でした。一方で、会員の皆様には労力、時間、金銭面において大きな負担を強いている現状があり、少し気に病んでおりました。

この父母の会の活動内容等については、肯定的ではない様々な意見があることも事実です。外部から批判の声を耳にすることや、目障りな存在と受け取られることもありました。ただ、この1年間父母の会の運営に携わって私どもが感じたことは、伝統として受け継がれてきたこの会の方向性、位置付けに根本的な間違いはない、ということです。「親たるものは子供にすべてを与えるべし」、子供たちが全国制覇を目標に必死に奮闘している姿を目の当たりにすれば、一緒にその願いを叶えようと、積極的かつ密接に関わり、全力でサポートするのは親として至極当然のことです。この父母の会は、滝二サッカー部が滝二サッカー部であるために、なくてはならない存在であると思うようになりました。

今後とも、このような父母の会の理念、趣旨にご賛同をいただき、益々のご理解とご協力をお願いします。新役員の方々のもと、私どもも皆さまとご一緒に、微力ながらチームをサポートしていきたいと思えます。

最後になりましたが、滝二サッカー部と関わる全ての方々により一層の『幸』が訪れることを祈念いたします。1年間大変お世話になりました。そして、本当にありがとうございました。





# 第95回全国高校サッカー選手権大会 出場にあたりましてのご支援へのお礼

大寒の候、皆様方にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、この度の第95回全国高校サッカー選手権大会出場にあたりましては、多数の皆様より多大なるご支援とご協力、ご声援を賜り、誠にありがとうございました。

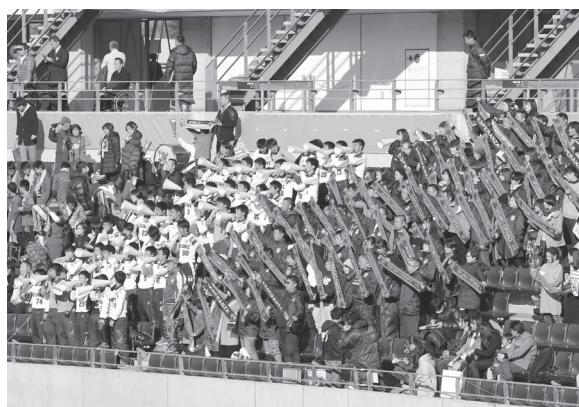
大会では1月5日に行われた準々決勝で群馬県代表の前橋育英高校と対戦し、全力を尽くしたものの0-2で敗れました。全国制覇という目標を達成することはできませんでしたが、全国の大舞台で3勝をあげ、ベスト8という成績をおさめることができました。選手達はこの経験を今後の人生、部活動をはじめとする学校生活に生かしてくれることと思います。

皆様方から頂いた温かいご支援に保護者一同、心よりお礼申し上げますとともに、今後とも滝川第二高校サッカー部に一層のご協力を賜りますようお願いを申し上げ、結果報告に併せ、お礼のご挨拶とさせていただきます。

滝川第二高等学校 サッカー部父母の会会長 森 田 一 司



夢の舞台「全国選手権大会」



「勝利」を願って



一丸となって応援!!



俺たちがついてる!

## 最後まで諦めない

29回生卒 千葉涼介

31回生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。滝二で過ごした3年間はどうか？とても充実した日々を送れた人が多いのではないのでしょうか。私は滝二で多くの事を学ぶ事ができました。それはサッカーの技術は勿論、何事にも最後まで諦めないということです。どんな状況でも苦しい時があっても自分を信じて行動することで様々な困難を乗り越える事ができました。また、かけがえのない仲間ができた事です。31回生のみなさんにはこれから先どんな事があっても自分を信じて行動してほしいです。そして3年間共に過ごした仲間を大切にしてください。行ってください。

## つながり

29回生卒 八木脩斗

31回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私も早いもので、卒業してもう2年が経ちました。2年前、選手権に出場したことをつい最近のように思えます。先日の選手権では二個下の可愛かった後輩が、逞しく強くなっている姿に、素直に感動しました。また、怯まず驕らず鋭刺とプレーしている姿が素直に羨ましかったです。今年のチームは、滝二らしく、まとまりがあり非常にいいチームで見応えがありました。その中で、自分達が高校時代に気づけなかった高校サッカーの素晴らしさを身に染みて感じさせてもらいました。

私たち29回生は新人戦、インターハイを落とし、無冠のプレッシャーを感じつつ、選手権はとることのできた学年です。やっと取れた県優勝は今までにない喜びであったことは今でも覚えています。そういった苦しみや、喜びを共にした仲間は今でも仲が良いです。そして私自身、本当に滝川第二高校を選んで良かったと何度も実感しています。滝二に来てなかったら最高の仲間とも出会えてないし、様々な経験は出来ていません。そこで31回生に伝えたいことは、横のつながりをこれからも大事にして欲しいということです。1つの目標に向かって切磋琢磨してきた仲間は一生ものです。3年間苦しい時も楽しい時も共に過ごした仲間をこれからも大事にしてください。これからそれぞれの道に進むと思いますが、滝二出身だということを誇りに思い、何事も頑張りたいと思います。

### <編集後記>

歴代の広報の方々がやって来られた仕事内容を引き継いだ一年前、想像以上の大役にちゃんとこなせるか不安だらけのスタートでした。

レンズを向けるとポーズをとってくれる子、恥ずかしそうにする子が、ピッチに入ると一変し集中する表情に感動し、輝く姿を無我夢中でシャッターを切りました。また、アップした写真を「楽しく観ているよ」という声を頂く度に労力を忘れ、幸せな気持ちになりました。

全国大会で選手、応援団が一丸となって戦う姿を撮影、編集出来た事は私達広報にとって最大のご褒美となりました。

最後になりましたが、監督をはじめスタッフ、保護者の皆様、そして滝川第二高校サッカー部を応援して下さるたくさんの方々のご支援、ご協力によりこの一年間広報活動が出来た事を心より感謝しております。本当にありがとうございました。

—広報一同—

(3年生の今井様、第一線での撮影、写真提供にご協力して頂きありがとうございました。)